

条約新戦略計画(ポスト2010年目標該当箇所)

環境省仮訳

ビジョン(展望)

この戦略計画のビジョンは、「自然と共生する」世界であり、すなわち「2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、それによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」世界である。

ミッション(使命)

生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する。これは、2020年までに、回復力のある生態系と、その提供する基本的なサービスが継続されることが確保され、それによって地球の生命の多様性が確保され、人類の福利と貧困解消に貢献するためである。

これを確保するため、生物多様性への圧力が軽減され、生態系が回復され、生物資源が持続可能に利用され、遺伝資源の利用から生ずる利益が公正かつ衡平に配分され、適切な資金資源が提供され、能力が促進され、生物多様性の課題と価値が主流化され、適切な政策が効果的に実施され、意思決定が予防的アプローチと健全な科学に基づく。

戦略目標A. 各政府と各社会において生物多様性を主流化することにより、生物多様性の損失の根本原因に対処する。

目標1: 遅くとも2020年までに、生物多様性の価値と、それを保全し持続可能に利用するために可能な行動を、人々が認識する。

目標2: 遅くとも2020年までに、生物多様性の価値が、国と地方の開発・貧困解消のための戦略及び計画プロセスに統合され、適切な場合には国家勘定、また報告制度に組み込まれている。

目標3: 遅くとも2020年までに、条約その他の国際的義務に整合し調和するかたちで、国内の社会経済状況を考慮しつつ、負の影響を最小化又は回避するために生物多様性に有害な奨励措置(補助金を含む)が廃止され、段階的に廃止され、又は改革され、また、生物多様性の保全及び持続可能な利用のための正の奨励措置が策定され、適用される。

目標4: 遅くとも2020年までに、政府、ビジネス及びあらゆるレベルの関係者が、持続可能な生産及び消費のための計画を達成するための行動を行い、又はそのための計画を実施しており、また自然資源の利用の影響を生態学的限界の十分安全な範囲内に抑える。

戦略目標B. 生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する。

目標5: 2020年までに、森林を含む自然生息地の損失の速度が少なくとも半減、また可能な場合には零に近づき、また、それらの生息地の劣化と分断が顕著に減少する。

目標6: 2020年までに、すべての魚類、無脊椎動物の資源と水生植物が持続的かつ法律に沿ってかつ生態系を基盤とするアプローチを適用して管理、収穫され、それによって過剰漁獲を避け、回復計画や対策が枯渇した種に対して実施され、絶滅危惧種や脆弱な生態系に対する漁業の深刻な影響をなくし、資源、種、生態系への漁業の影響を生態学的な安全の限界の範囲内に抑えられる。

目標7: 2020年までに、農業、養殖業、林業が行われる地域が、生物多様性の保全を確保するよう持続的に管理される。

目標8: 2020年までに、過剰栄養などによる汚染が、生態系機能と生物多様性に有害とされない水準まで抑えられる。

目標9: 2020年までに、侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶される、また、侵略的外来種の導入又は定着を防止するために定着経路を管理するための対策が講じられる。

目標10: 2015年までに、気候変動又は海洋酸性化により影響を受けるサンゴ礁その他の脆弱な生態系について、その生態系を悪化させる複合的な人為的圧力を最小化し、その健全性と機能を維持する。

戦略目標C. 生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることにより、生物多様性の状況を改善する。

目標11: 2020年までに、少なくとも陸域及び内陸水域の17%、また沿岸域及び海域の10%、特に、生物多様性と生態系サービスに特別に重要な地域が、効果的、衡平に管理され、かつ生態学的に代表的な良く連結された保護地域システムやその他の効果的な地域をベースとする手段を通じて保全され、また、より広域の陸上景観又は海洋景観に統合される。

目標12: 2020年までに、既知の絶滅危惧種の絶滅及び減少が防止され、また特に減少している種に対する保全状況の維持や改善が達成される。

目標13: 2020年までに、社会経済的、文化的に貴重な種を含む作物、家畜及びその野生近縁種の遺伝子の多様性が維持され、その遺伝資源の流出を最小化し、遺伝子の多様性を保護するための戦略が策定され、実施される。

戦略目標D. 生物多様性及び生態系サービスから得られる全ての人のための恩恵を強化する。

目標14: 2020年までに、生態系が水に関連するものを含む基本的なサービスを提供し、人の健康、生活、福利に貢献し、回復及び保全され、その際には女性、先住民、地域社会、貧困層及び弱者のニーズが考慮される。

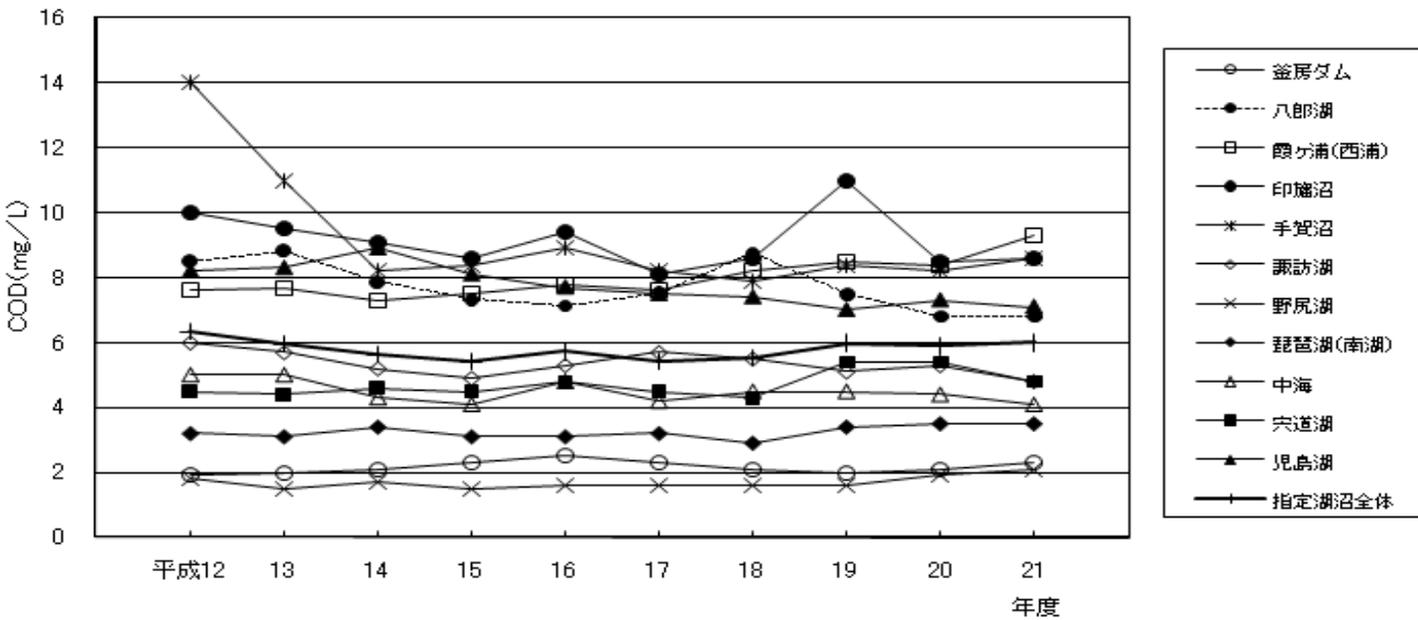
目標15: 2020年までに、劣化した生態系の少なくとも15%以上の回復を含む生態系の保全と回復を通じ、生態系の回復力及び二酸化炭素の貯蔵に対する生物多様性の貢献が強化され、それが気候変動の緩和と適応及び砂漠化対処に貢献する。

目標16: 2015年までに、遺伝資源へのアクセスとその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書が、国内法制度に従って施行され、運用される。

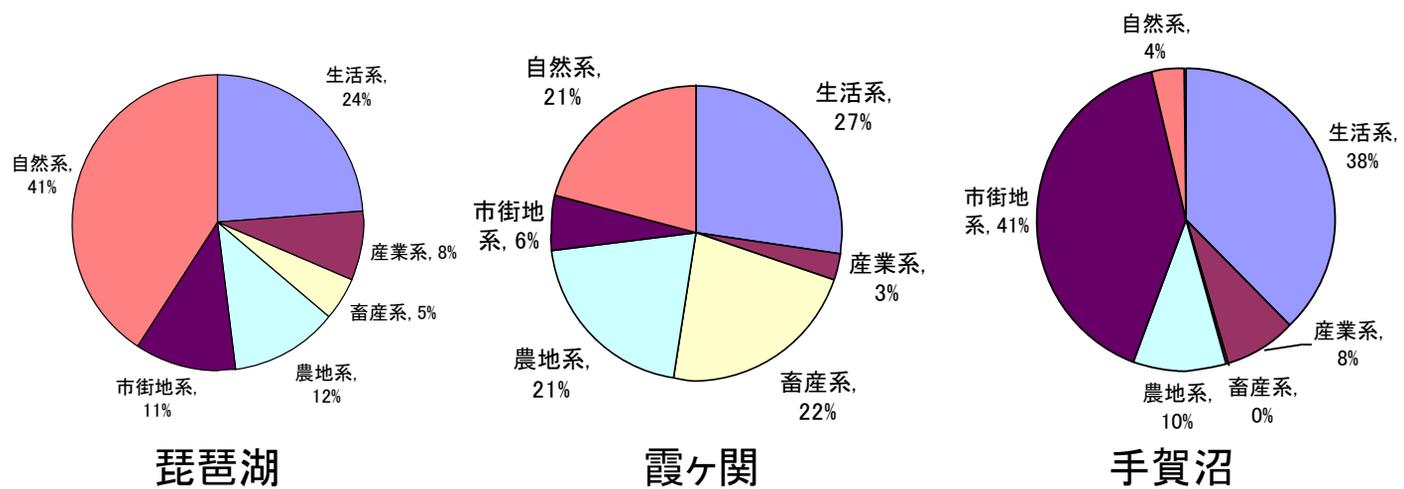
戦略目標E. 参加型計画立案、知識管理と能力開発を通じて実施を強化する。

目標17: 2020年までに、各締約国が、効果的で、参加型の改訂生物多様性国家戦略及び行動計画を策定し、政策手段として採用し、実施している。

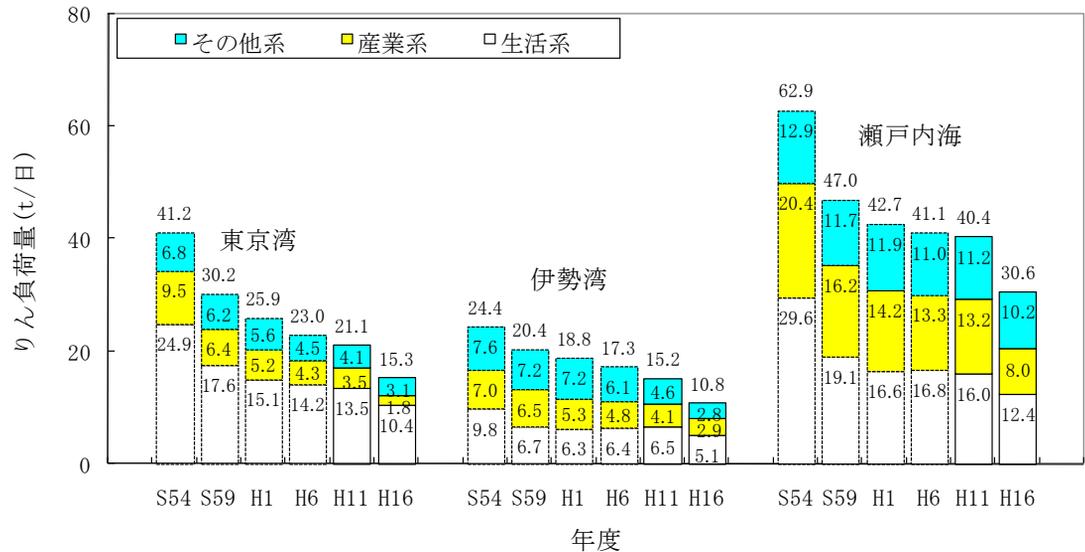
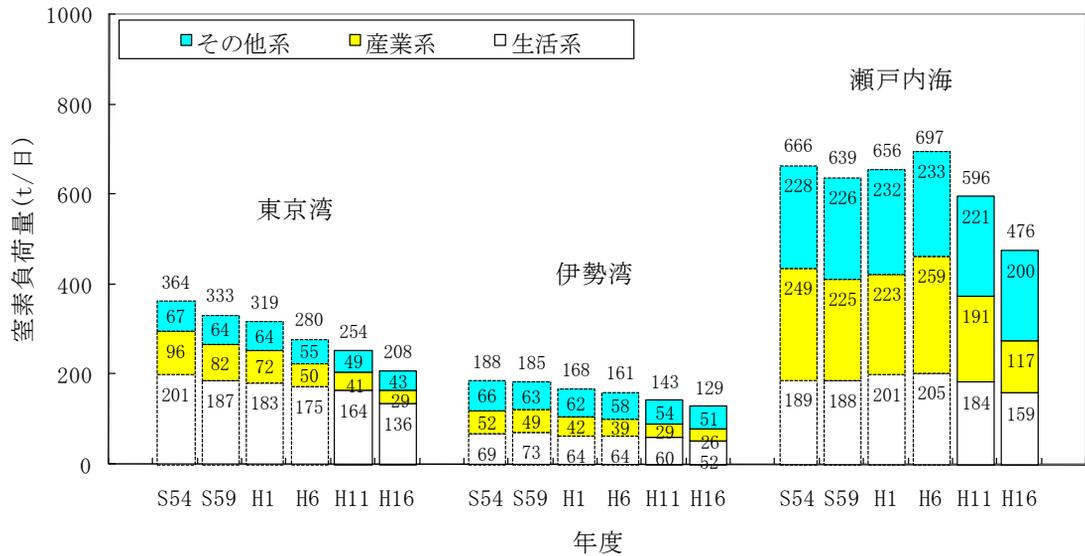
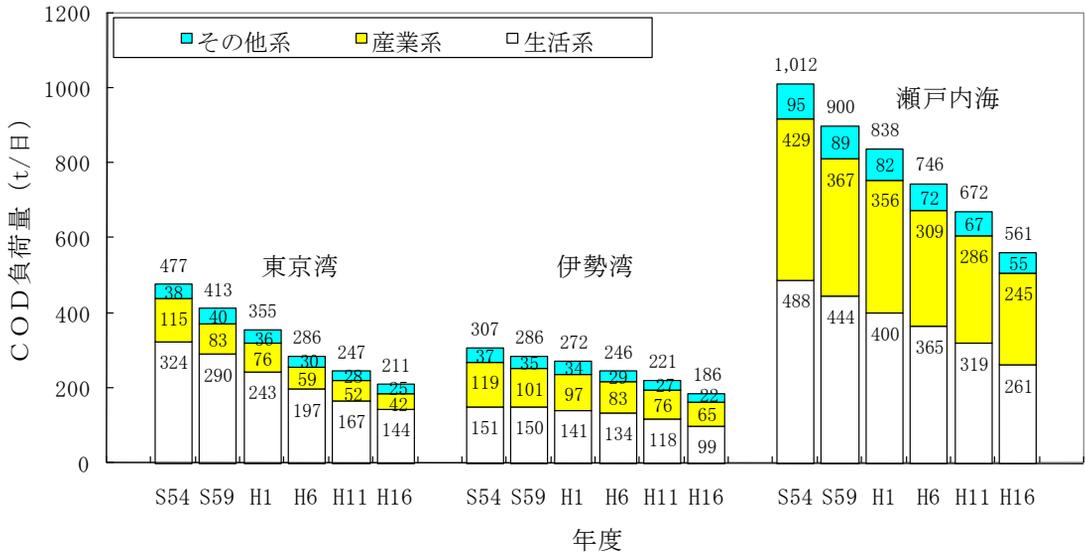
指定湖沼の水質状況の推移(COD年間平均値)



湖沼における発生源別汚濁負荷割合(COD:平成17年度)



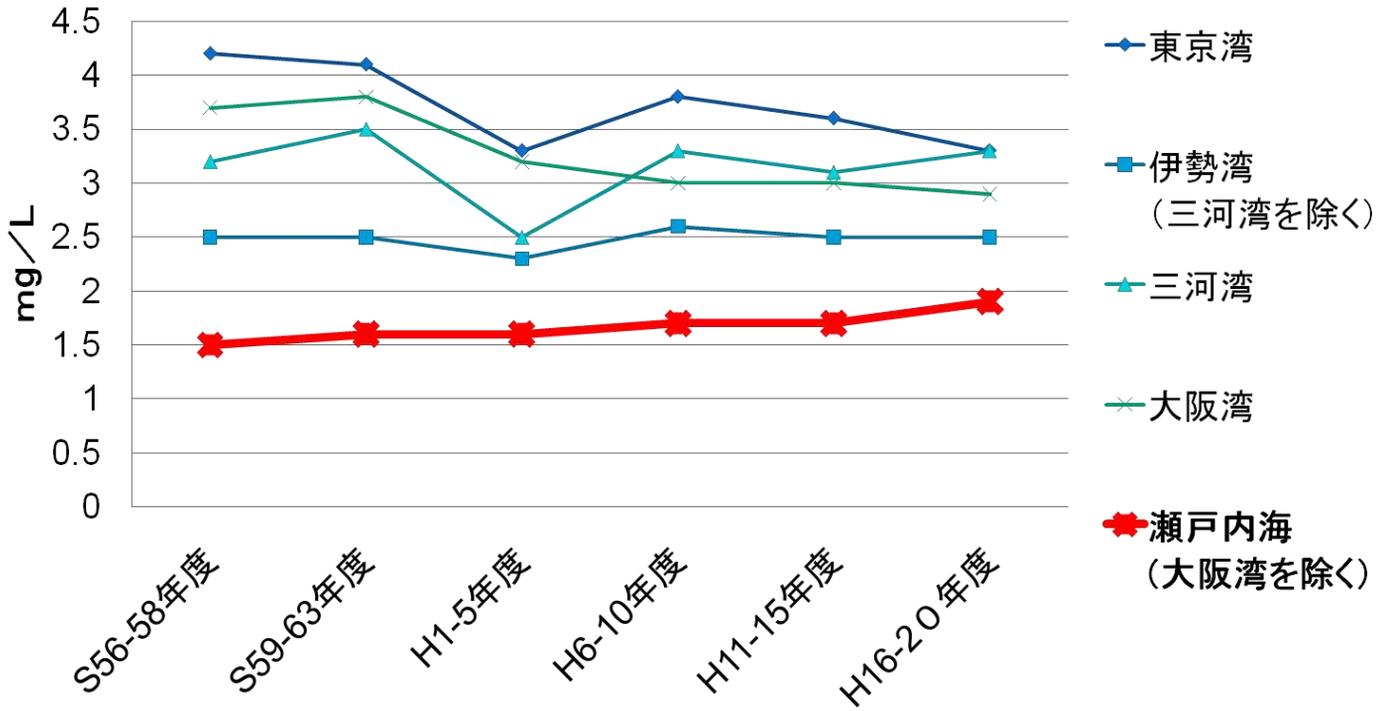
指定地域における汚濁負荷量の推移



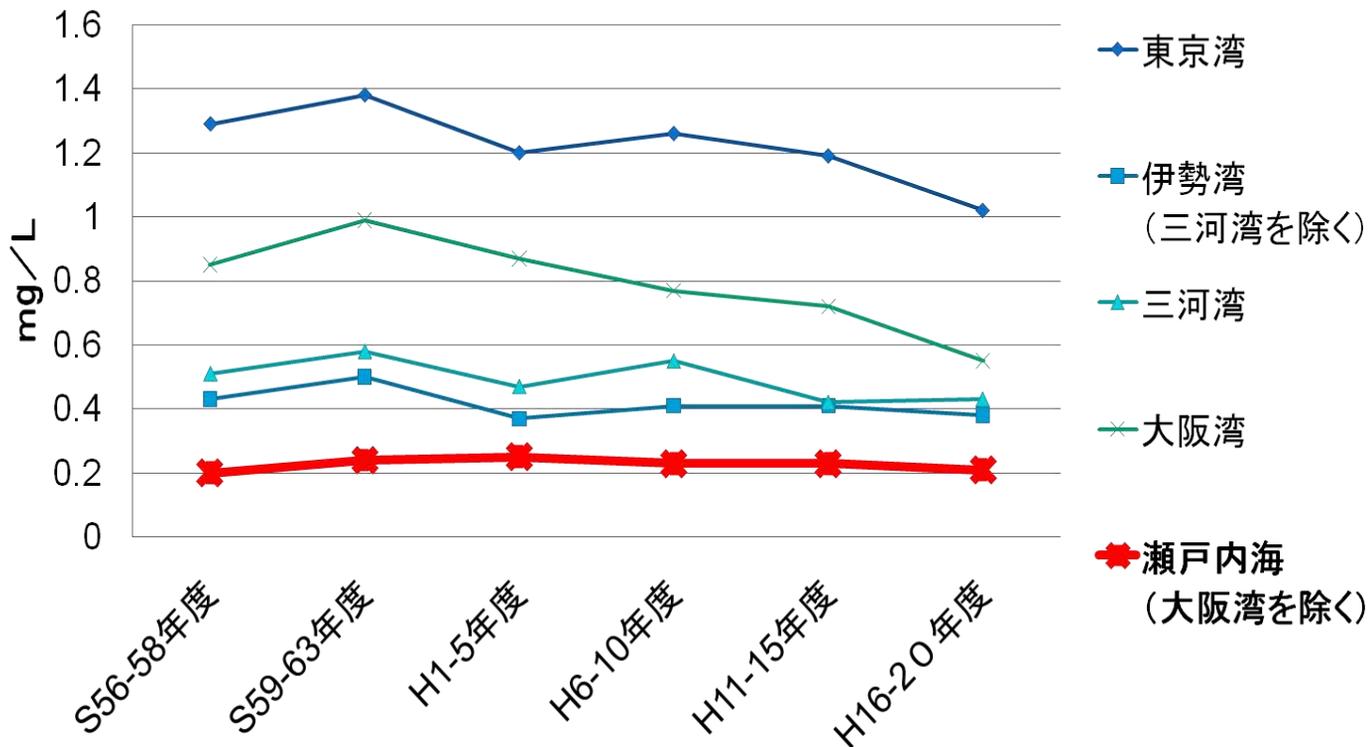
備考) 点線の棒グラフは、関係都府県による推計値

指定地域における汚濁負荷量の推移

COD濃度(上層・期間平均値)

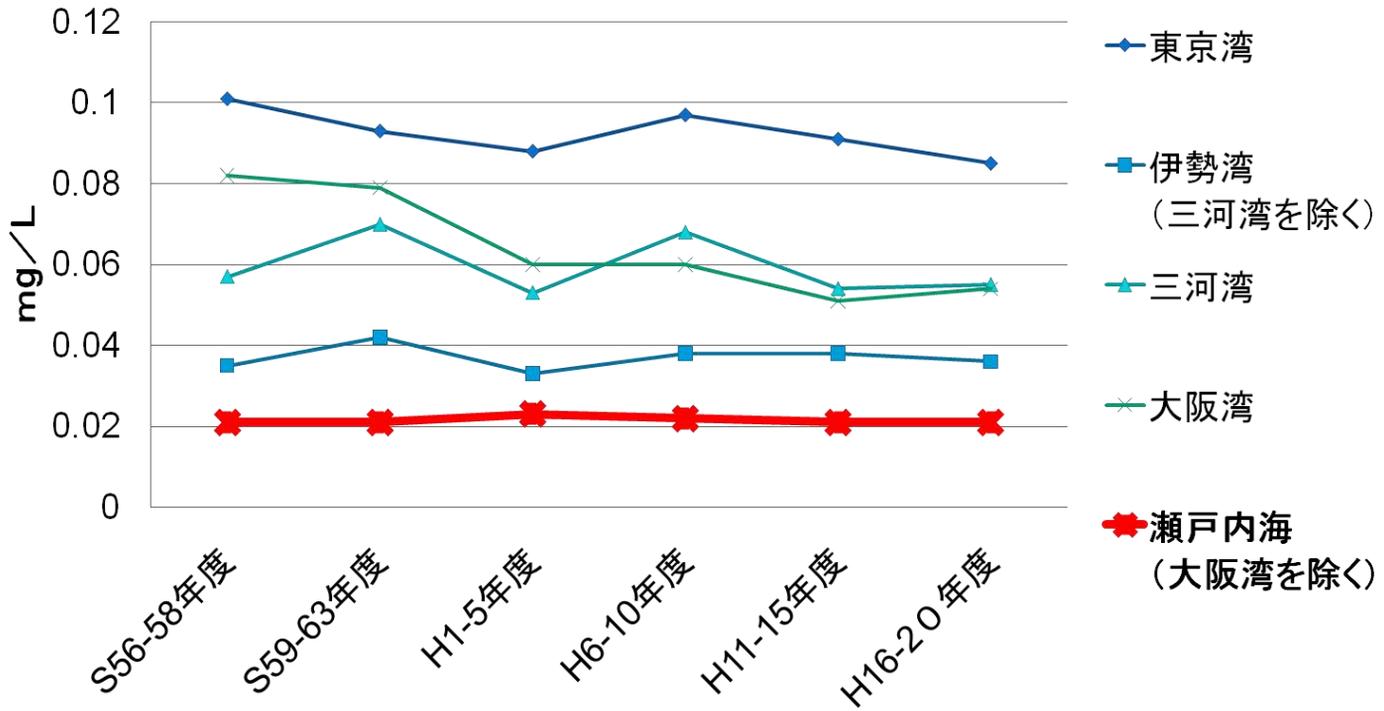


窒素濃度(上層・期間平均値)

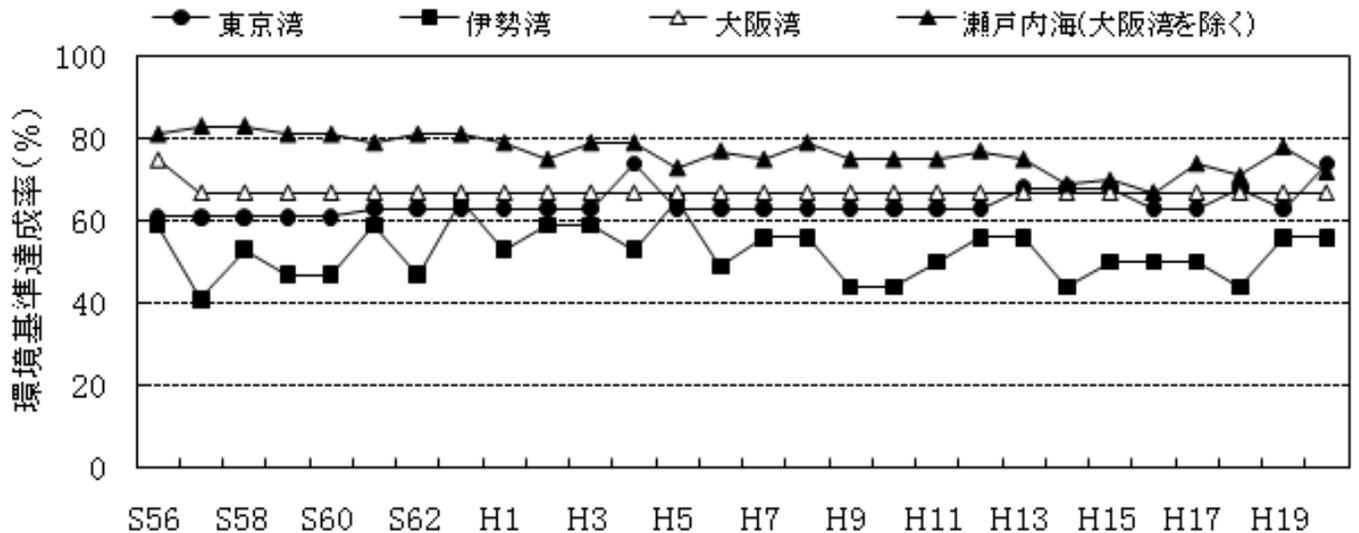


指定地域における汚濁負荷量の推移

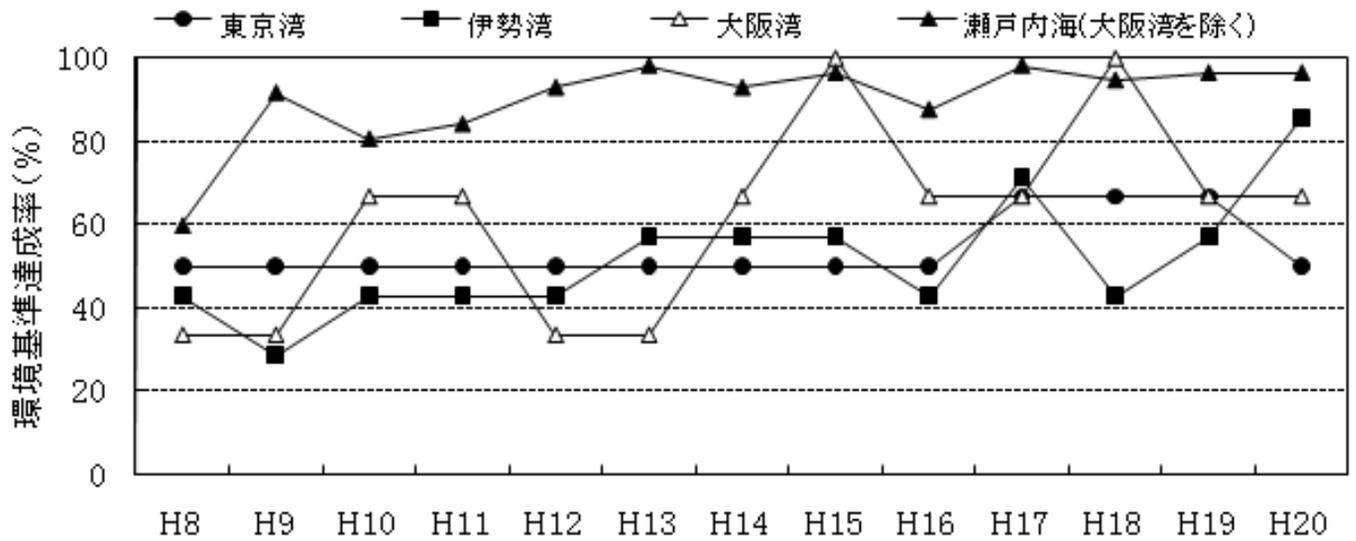
りん濃度(上層・期間平均値)



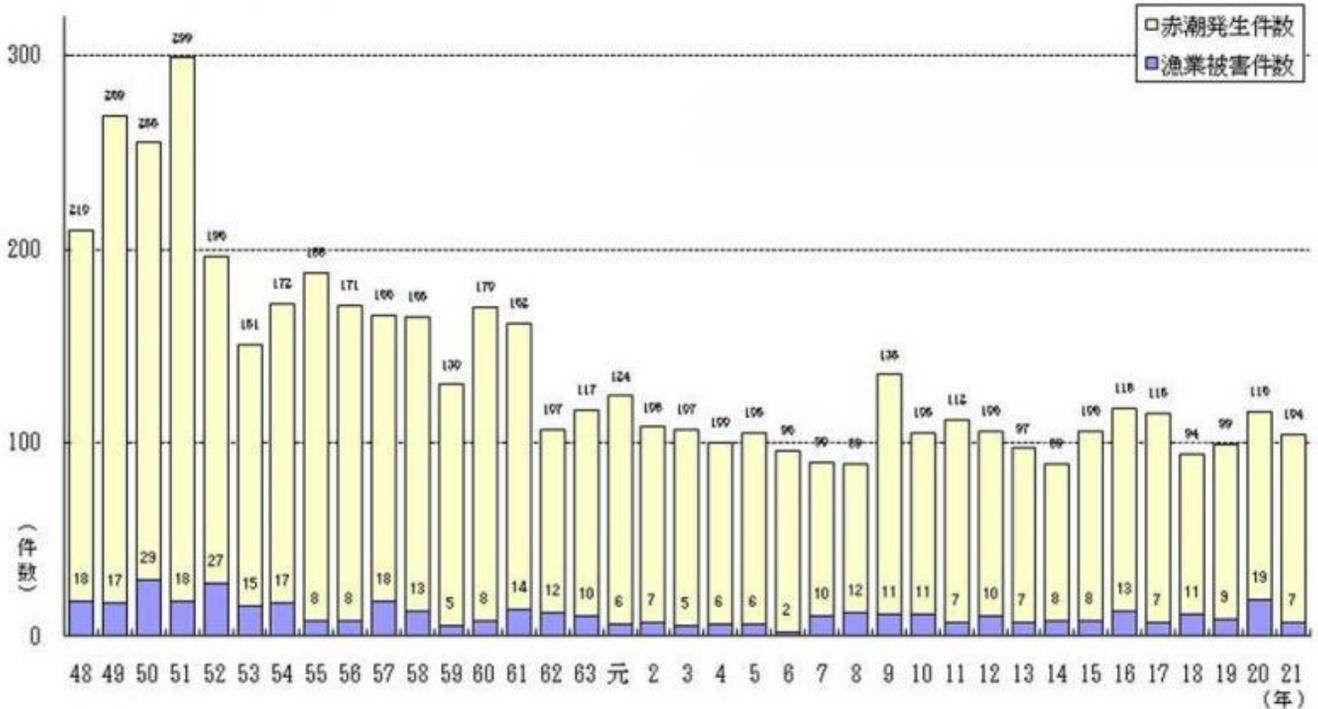
CODの環境基準達成率の推移



窒素及びリンの環境基準達成率の推移

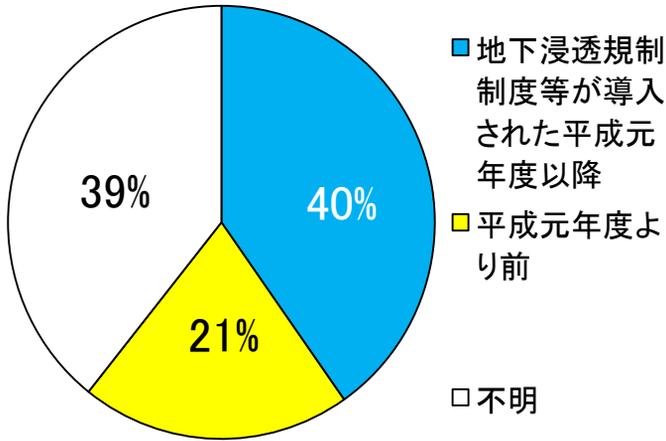


瀬戸内海 の赤潮発生件数、漁業被害件数

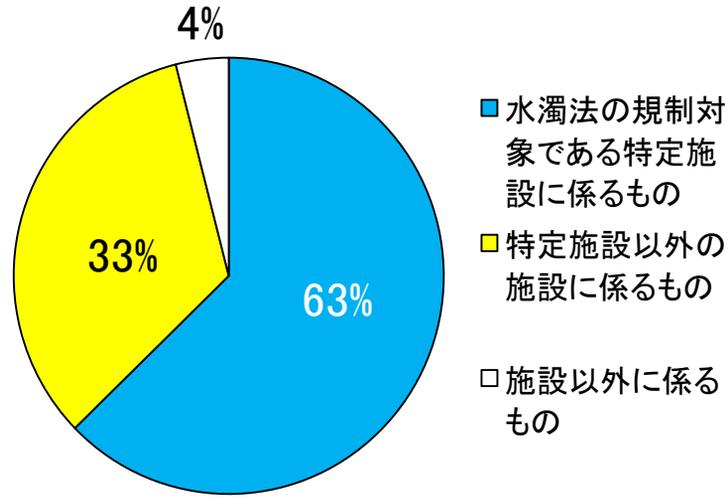


地下水汚染の現状

汚染原因行為等(汚染水の地下浸透)の終了時期

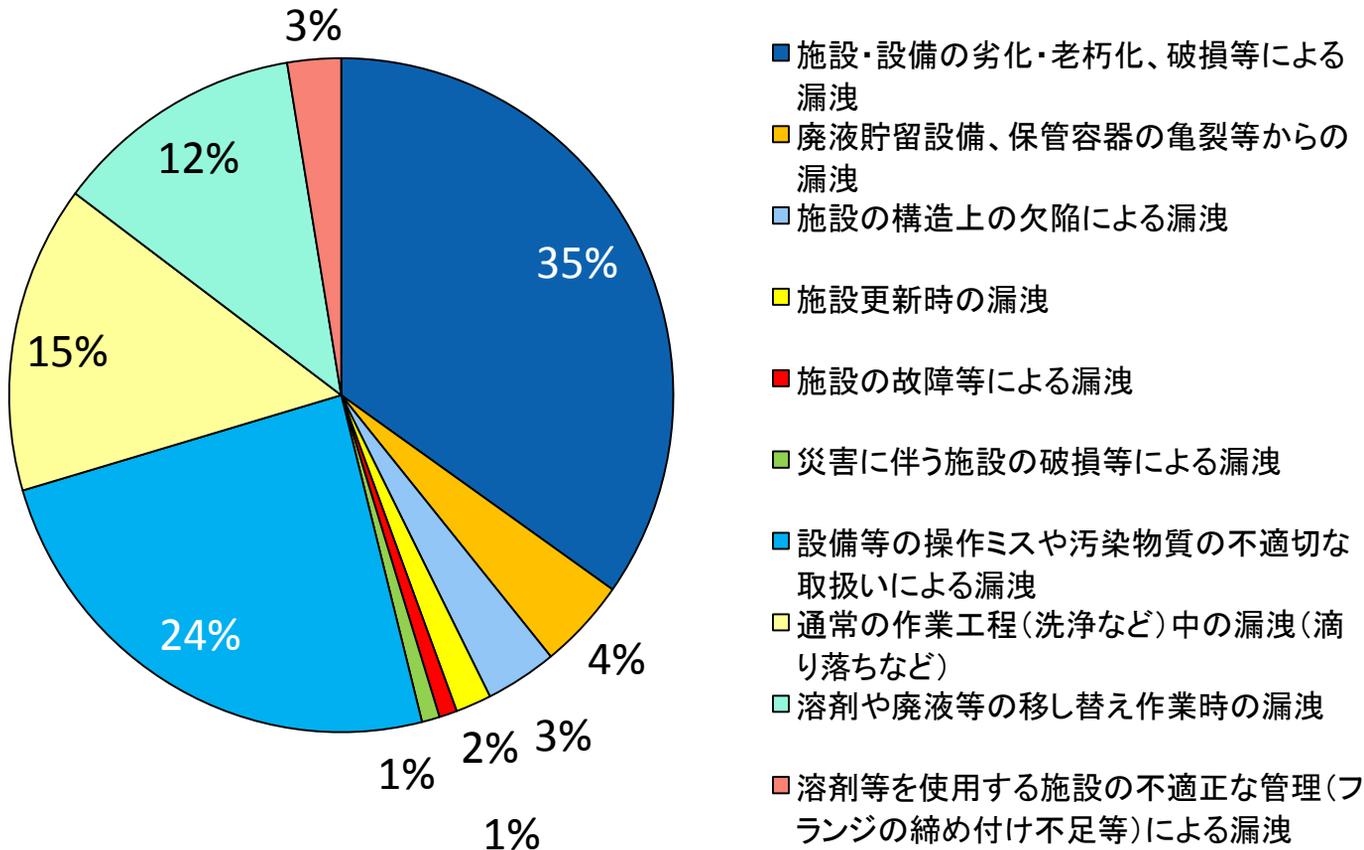


原因施設等の種別



◎特定地下浸透水を地下浸透させると届出した事業場(9事業場)が原因と推定される地下水汚染は確認されていない。

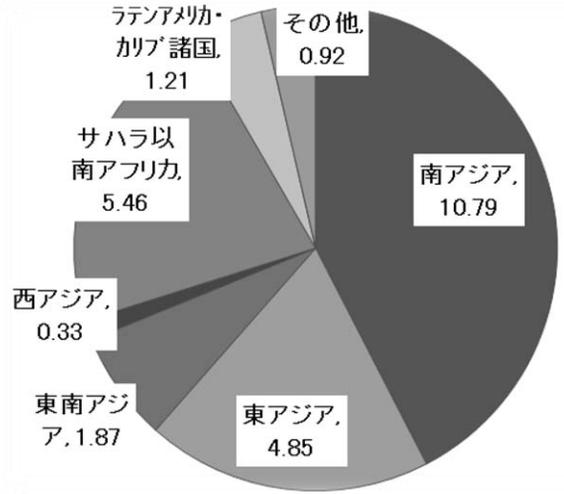
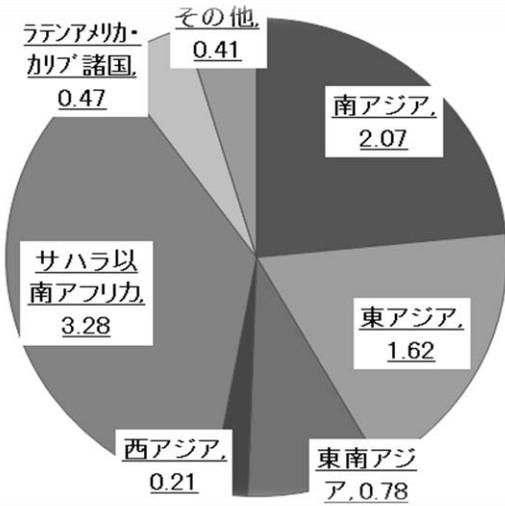
漏洩の原因



世界における水問題の状況

安全な飲料水を継続して
利用できない人口(億人)

基礎的な衛生施設を継続して
利用できない人口(億人)



出典: WHO/UNICEF「Progress on Drinking-water and Sanitation: special focus on sanitation,2008」

アジア水環境パートナーシップ(WEPA)加盟国



平成21年度全国水生生物調査結果

1. 参加人数及び参加団体数

平成21年度の参加人数は70,623人であった。

うち、一級河川※1は15,183人であり、その他の河川※2は55,440人であった。また、参加団体数は1,856団体で、うち一級河川は449団体であった。

参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで各種団体、中学校の順番であった。

都道府県別の参加者数では福島県が最も多く、次いで岩手県、愛知県の順番であった。なお、一級河川では北海道が最も多く、1,851人であった。

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	うち一級河川
1	福島県	8,623	113
2	岩手県	6,151	372
3	愛知県	5,457	537
4	岐阜県	5,159	194
5	広島県	2,999	607

※1一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）

※2一級河川都道府県管理区間及び二級河川等※1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

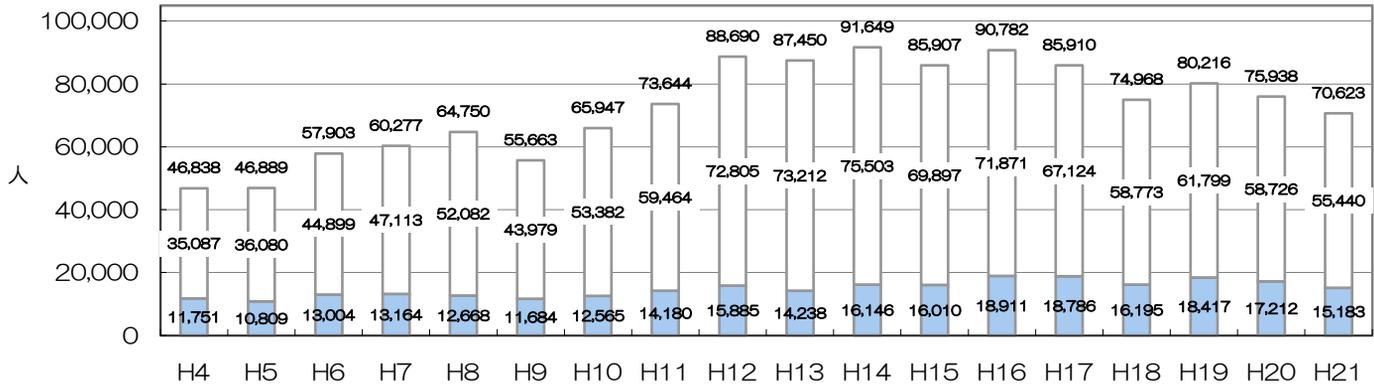


図-1 参加人数の推移

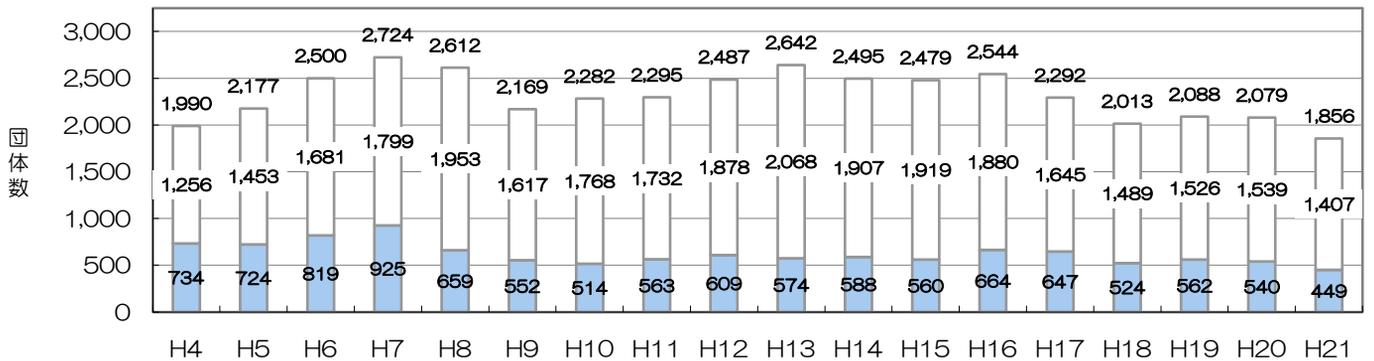


図-2 参加団体数の推移

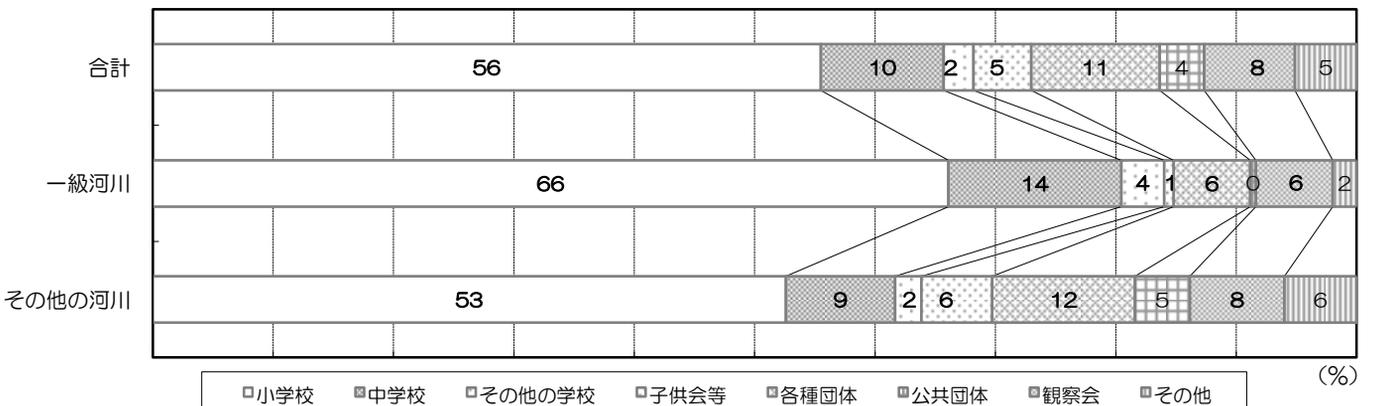


図-3 参加人数の団体種類別構成比

※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

2. 調査地点数

調査地点数は3,059地点であった。
内訳は、一級河川は567地点、その他の河川は2,492地点であった。

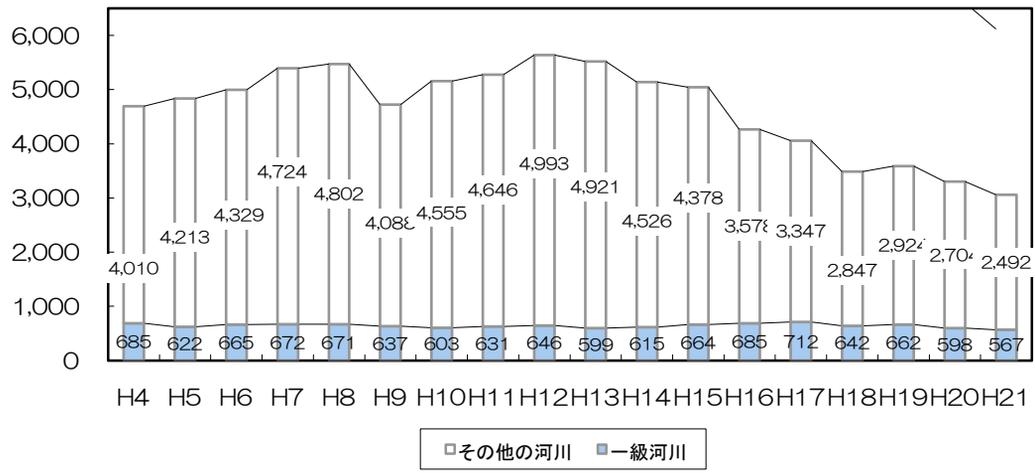


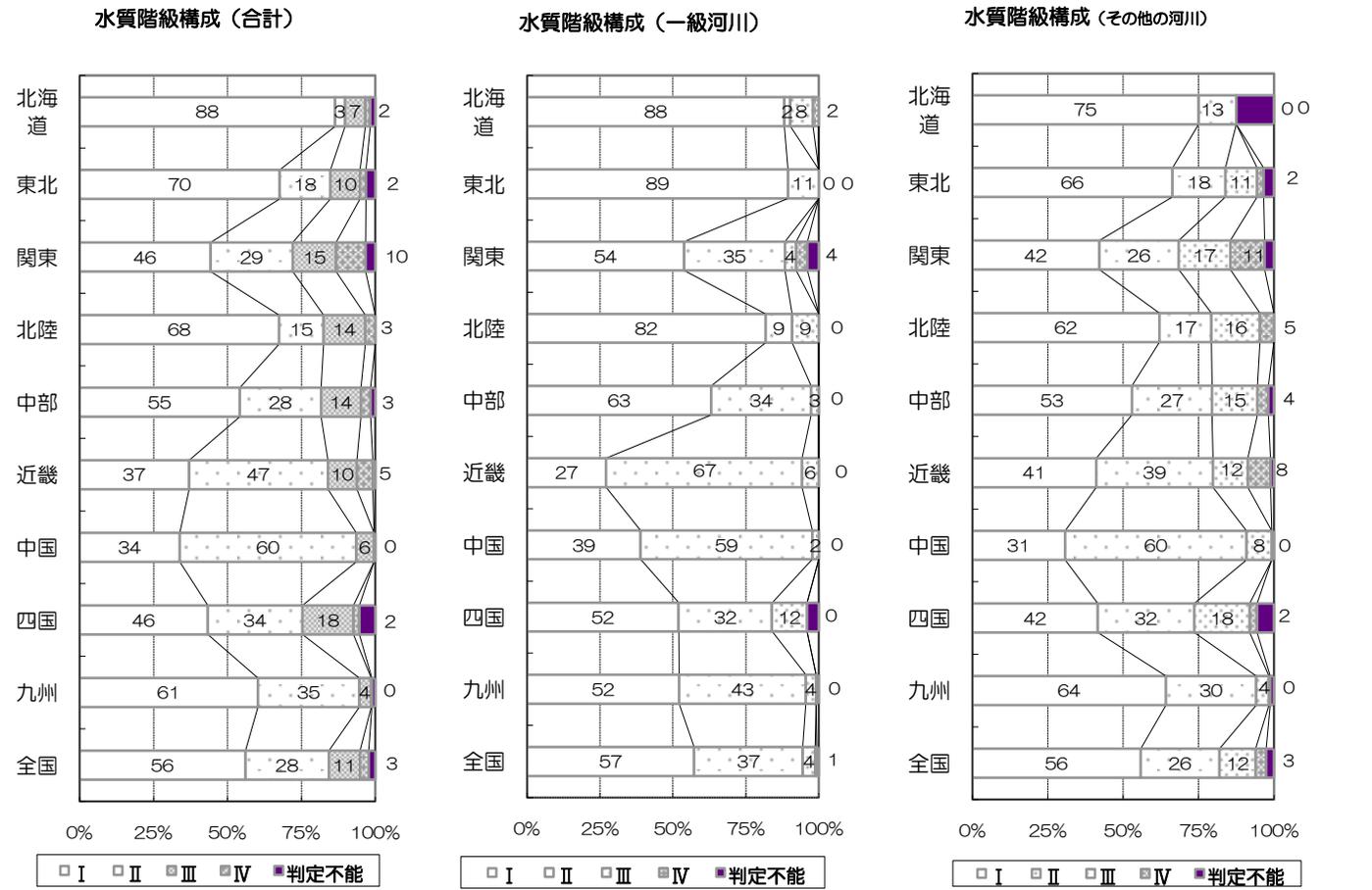
図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成 (地域別の水質の状況)

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状況を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概観的に知ることができると考えられる。

平成21年度は、全国で水質階級Ⅰ(きれいな水)と判定された地点が56%、Ⅱ(少しきたない水)が28%、Ⅲ(きたない水)が11%、Ⅳ(大変きたない水)が3%であった。

Ⅰ(きれいな水)の割合でみると関東、近畿、中国、四国地方は50%以下であったが、北海道、東北地方は70%以上の高い値であった。各地方の一級河川とその他の河川のⅠ(きれいな水)の構成比は全般に似通った値であるが、近畿、九州地方等はその他の河川の方がⅠ(きれいな水)の構成比が高く、東北、北陸地方等では逆に一級河川の方が高いなど地域による差も生じている。



※判定不能の数値レベルは図中に表示していない。
四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。

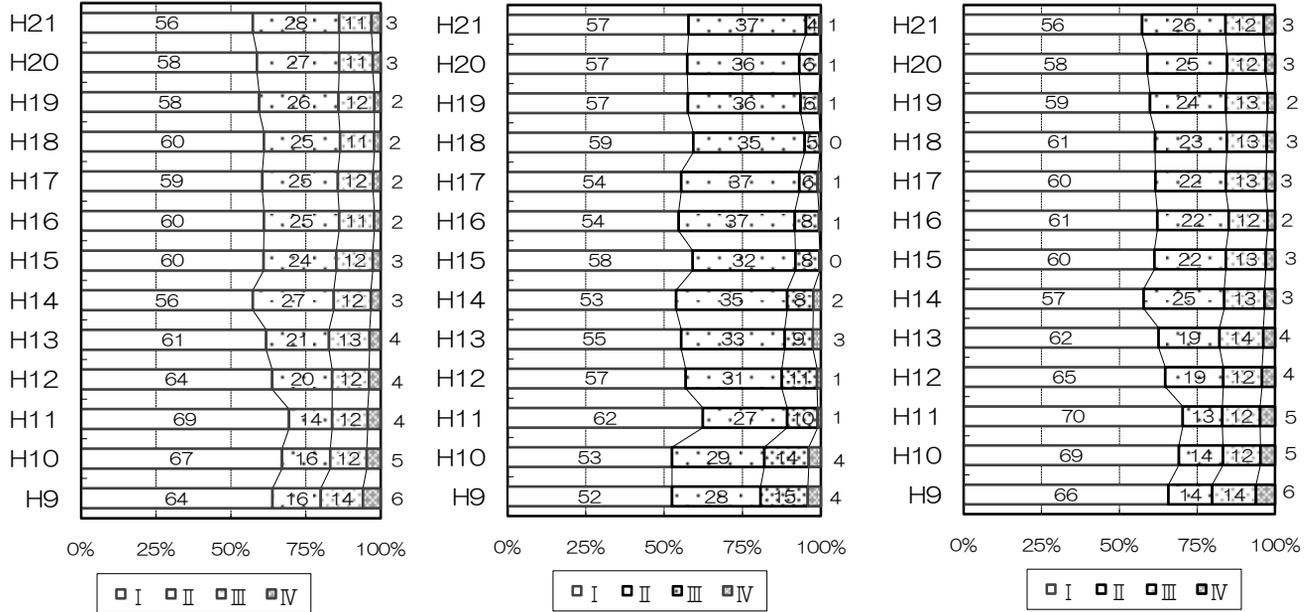
平成11年度をピークに、I（きれいな水）と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、平成14年度以降は56～60%前後でほぼ横這いとなっている。本年度は、昨年度より2ポイント低い56%となった。

なお、年次ごとの調査地点については相違しており、必ずしも同地点を比較したものではない。

合計

一級河川

その他の河川

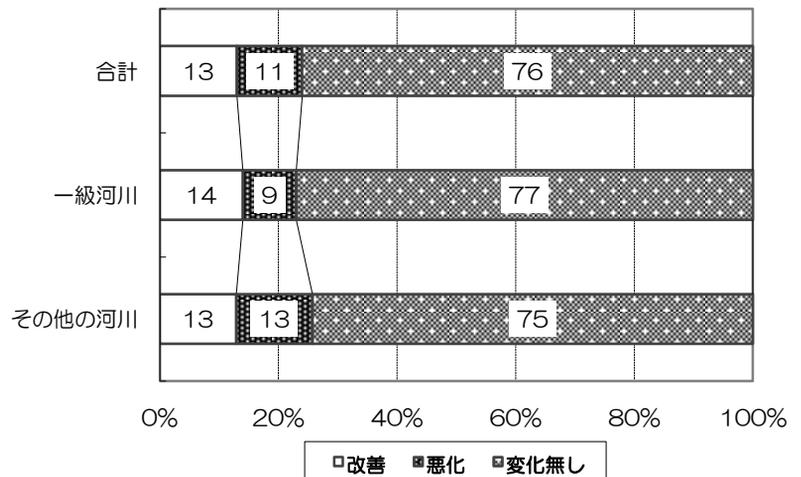


※1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
 ※2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前の厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（H20）との比較

前年度と同じ地点で調査された970地点について比較すると、13%の地点が改善、11%の地点が悪化、76%の地点が同じ水質階級であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較

しんじこ しまか ちゅうみ かん さうやう こん かん かん 宍道湖・中海の環境を五感でチェックしてみよう!

「五感」ってなに?

「五感」とは、私たちが感じることで、次のような感覚のことです。

五感による湖沼環境指標

観察日 月 日 観察地

チェックしたら何がわかるの?

宍道湖・中海の環境がどういふ状態かわかります。みんなできれいにするための方法を話し合い、実際に行動してみよう。

わたしたちができることから始めよう

フライパンや鍋、お皿の汚れは、まず古紙や古布でふき取ってから洗いましょう。

チラシなどを切つて、自治体備えておくべし!

料理を作りすぎないよう、また調味料などを使い過ぎないよう心がけましょう。

残った味噌汁や香辛料を流し捨てないで!

お米のとぎ汁を利用して、お米のとぎ汁は流さないで、油汚れの食器洗いや肥料として使いましょう。

油はなるべく使いきるように工夫し、使えなくなつた油は、流して流さないようにしましょう。食用油の回収に出すか古紙等にしみこませてゴミとして出しましょう。

廃食用油を自治体が回収している所は、回収を活用しましょう!

五感	観察項目	選 択	判 断 対 象 の 例	点 数
見	湖 水 の 澄 み 具 合	澄んでい	水の透明感、色、アオコ、赤潮など	(20点)
		少しにごっている		(10点)
		にごっている		(0点)
聞	音	ほとんどない	水面や湖岸に見当たるゴミなど	(20点)
		少し見当たる		(10点)
		たくさんある		(0点)
嗅	臭 気	美しい心がなごむ・風情がある	周囲の山並みや建物、朝日・夕日、シジミ漁の風景など	(10点)
		特に感じることはない		(5点)
		程風景・見通しが悪い		(0点)
味	魚 介 類	こちよく感じる音・静かで落ち着く	鳥の鳴き声、さざ波の音、近くの寺の鐘の音、船舶の音、車の音、工場の音など	(10点)
		特に気にならない音		(5点)
		うるさく感じる音		(0点)
触	湖 水 の 感 触	こちよい香り・臭いはない	潮の香り、木や草花の香り、排気ガスの臭い、煙の臭い、ヘドロ臭など	(20点)
		特に気にならない臭い		(10点)
		くさく感じる		(0点)
触	湖 水 の 感 触	食べてみたい	シジミやアサリなど宍道湖・中海でとれる魚介類	(10点)
		どちでもでない		(5点)
		食べてみたいと思わない		(0点)
触	湖 水 の 感 触	触ってみたい	手や足を湖水につけてみたいかどうか	(10点)
		触ることに少し抵抗がある		(5点)
		触りたくない		(0点)

■五感による湖沼環境ランク表

合計点数	ランク	評 価 内 容
80点以上	A	おおむね良好で親しみやすい環境にあると感じられる
50点~79点	B	やや気になる面があるが、まずまず良好な環境であると感じられる
49点以下	C	快適さに欠け、親しみにくい環境にあると感じられる

合計

点

★すべての観察項目について観察できなかった場合は、次により算出してください。
 合計点数 = (観察した結果の合計点) × 100
 (観察した項目の点数欄の最高得点の合計)

調査結果(H20-21)

宍道湖全体



中海全体



結果(点数の推移)

◆ 宍道湖 ■ 中海

五感点数

